

一九八四年も最終号を迎えた。雑誌の凋落が著しく、本誌もその例外では無い。しかし、とにもかくにも、一年の歩みを終えた。

この一年、教育の世界は、必ずしも、よい方向にのみ動いていたとは言えない。教員養成に関する再検討、あるいは教育要領改訂への始動、そして臨教審の設置など、公に主導される様々な改革案は、そもそも、何を志向し、何をはらんでいるのだろうか。公の側が改革に熱意を示すときは、それだけ現行秩序が脅かされ、危機感が高まっていることの徴である。関係者一人々々の善意を超えて、それは、現行秩序の維持に奉仕する動きである。そして、私ども「大家族」は、よくも悪くも、現行秩序の側に属していることを忘れてはなるまい。公の動きに加担するにせよ、それを批判して異を唱えるにせよ、あるいは無関心である

にしても、それらはいずれも、現行秩序の体系に、既に組み込まれ、一つの位置を獲得した者の立場からなされる営為なのだ。「教師」といい、あるいは「母親」というも、すべて現行秩序の中で公認された「ポジション」であり、「役割」であることは自明なのだから。

子どもたちが、秩序の枠組から自ずから逸脱し、その特有の生を自在に紡ぎ出す存在であるとすれば、私ども大人は、明きらかに彼らとは異なった岸辺に佇んでいる。とすれば、私たちは、メディアエーターなのだろうか。私たちの営みは、みずからの身体を介して、この兩者を「とりなそう」とすることかも知れない。私どもの存在そのものを、時々刻々、活性化し新しく蘇らせることの意義は、ここに見出される。本誌が、新しい年も発刊を続けようとするこの意義も、恐らくは、ここに求められるであろう。(且

## 幼児の教育 第八十三巻 第十二号

十二月号 ㊦

定価三〇〇円

昭和五十九年十一月二十五日 印刷

昭和五十九年十二月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子  
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします